

「とくしま流域水管理計画（素案）」について

平成29年4月施行の「徳島県治水及び利水等流域における水管理条例」に基づき、流域における水管理を総合的かつ計画的に推進し、「新次元の水管理」を実現するため「流域水管理計画」の策定を進めている。

6月定例会以降に実施した、パブリックコメント及び住民懇談会から頂いた御意見や、流域住民、学識経験者、行政機関で構成する「未来へ紡ぐOUR（あわ）の水会議」での御審議を踏まえ、このたび、計画（素案）をとりまとめた。

1 計画（素案）の特徴

- 歴史を踏まえ、最新の知見を盛り込み、見据える将来像
 - ・治水の労苦の歴史、河川改修などの取組事例、近年の豪雨災害をしっかりと受け止め、計画に反映
- 「県民総ぐるみ」で取り組む推進体制
 - ・「水会議」のもとで計画を策定、多様な主体が連携を強化して推進
- 「羅針盤」として流域全体を包括した「新次元の水管理」を展開
 - ・治水だけでなく利水、環境等あらゆる水問題解決の処方箋を「流域水管理プラン」として整理し、有機的に連携

2 計画（素案）の概要

- 対象：県下全域
- 計画期間：概ね30年
- 「流域水管理プラン」（条例の5本柱ごとに束ね、展開する施策）
 - ①【治水】：歴史を踏まえ、「治水対策を最優先」とする水管理
 - ・IoT、AI等最先端技術を活用した効率的河川・ダム管理 など
 - ②【利水】：頻発する渇水に備える新たな水資源の確保
 - ・洪水後期の水を治水容量へ貯水し、利水に活用 など
 - ③【水循環及び環境】：徳島の魅力を活かす流域づくり
 - ・豊かな自然、本県の代表産業LEDなどを活用した水辺整備 など
 - ④【災害対応】：洪水、地震、津波等あらゆる災害リスクへの備え
 - ・地域住民や防災組織との情報共有等による地域防災力の強化 など
 - ⑤【水教育】：水文化等の継承や新たな人材育成
 - ・新たに「水教育担当者交流会議」を開催し、人材を育成 など

3 今後のスケジュール

- ・計画（素案）について「パブリックコメント」
- ・年度内の策定を目指す